

認知症施策個別アンケート調査概要（速報版）

◆調査概要

1 調査目的

犬山市認知症施策推進計画策定に向け、認知症の人とその家族の声を直接聴くことで、選択式アンケートでは表面化しない、「こころの声」を吸い上げるとともに、真相を深掘しながら、課題を明らかにし、苦悩に寄り添うため。

2 調査対象

市内居宅介護事業所から紹介を受けた9世帯の認知症の方（以下、「当事者」という）及びその家族（以下、「介護者」という）を対象とした。

当事者は70～80歳代の男女9人である。介護者は、当事者の配偶者や子ども等である。

今回の調査では、介護者の中で、子どもの配偶者や当事者の孫も参加するなど、家族ぐるみで認知症を抱える当事者への関心がうかがえた。

3 調査期間

令和7年11月～令和8年1月

4 調査方法

高齢者支援課職員（2名）が出向いて、当事者と介護者へのヒアリングを実施した。

5 調査項目

- ①最初の相談先
- ②認知症と診断されて感じたこと
- ③現在の困りごと
- ④将来の困りごと、心配ごと
- ⑤嬉しかった周囲の対応
- ⑥つらかった周囲の対応
- ⑦知っている認知症施策
- ⑧充実してほしい認知症施策

6 調査回答状況

9世帯訪問（当事者7人、介護者11人、）

※当事者2名は当日体調不良により、7人の聞き取りとなった。

◆調査結果

1 最初の相談先

認知症を疑った時、診断を受けた時の相談先は、病院やケアマネジャー、高齢者あんしん相談センター、介護保険サービス事業所、家族があげられた。

元々、当事者の親が認知症であったり、すでに介護保険サービスを利用していると、予備知識もあり、スムーズに相談できている様子うかがえる。

一方で、どこに相談したらよいのか、気になるがどこの病院に行けばよいのかわからないという意見もあり、介護保険サービス等の予備知識がない場合、戸惑っている様子もうかがえた。

2 認知症の診断を受けたときの思い

介護者については、今回の対象者は、認知症に関する予備知識や経験がある人が多く、比較的冷静に受け止めている様子うかがえる。介護保険サービスに関する知識があることが重要と考えられる。

3 現在困っていること

本人とのコミュニケーションがとれないこと、すぐに忘れてしまうこと、動き回って転倒やけがの危険があること等が介護者からあげられているが、本人の自覚は薄い。

4 将来の困りごと、心配ごと

介護者が将来に向けて心配していることは、施設に入ることができるのか、あるいは施設選び、経済的な負担が心配されている。

5 うれしい周囲の対応

当事者のことを気にかけてくれること、家族や友人などが会いに来てくれることをうれしく思っている。

介護者は、家族の支援、介護保険サービス事業者のスタッフや当事者の友人、地域の人の声かけがうれしい対応としてあげられている。

6 つらい周囲の対応

当事者が家族に負担をかけているかもと不安を持っている人もいる。

また、保険会社や金融機関の契約を当事者と勧められるといった不安の意見もあった。一方で、つらい対応をあげる人は少なく、周囲が温かく見守っていることを実感されている意見が多い。

7 知っている認知症施策

- ・認知症サポーター養成講座
- ・フレイル予防スクール

- ・在宅要介護介護手当など、広報やホームページ掲載する高齢者福祉サービスはチェックしている。また、市が窓口等で配布する「高齢者福祉サービス一覧表」など。
- ・聞いたことはあるけど、実際に利用するまでは考えていない。
理由：家族でまだまだ対応できると考えている。本人の年齢を考慮すると、そう長くないことを考えると、それまでは頑張れると思うから。

8 今後充実してほしい認知症施策

- 在宅で介護している市民に対して現状に寄り添った支援がほしい。
意見等：
 - ・日頃の苦労を吐出す場所がほしい。
 - ・認知症サポーター養成講座も良い取り組みだが、家族が介護を頑張り過ぎないように、気持ちを聞いてもらえると助かる。
 - ・こういった市役所の人が当事者の話を聞いてくれるのは非常によいことだと思う。認知症カフェもよいが、また話を聞いてください。
- 在宅で介護している市民に対して適切な情報を提供してほしい。
意見等：
 - ・認知症理解への偉い人などの講話ではなく、日常のちょっとしたことや愚痴を聞いてほしい。
 - ・認知症の症状にも個人差がある。症状別にどのように対応したらよいかなど、医師等による勉強会があるとよい。
 - ・認知症カフェに行ったことがあるが、既にグループができていて参加しづらかった。